

岐阜市新庁舎建設基本設計 建物形状等に関する検討会の意見

1 はじめに

岐阜市は百年の大計たる新庁舎建設事業を進めるにあたり、「窓口サービスなどの利便性の向上」をはじめ、「周辺環境との調和」や「復旧・復興業務拠点としての機能強化」など6つの基本方針を掲げています。

新庁舎建設地周辺には「みんなの森 ぎふメディアコスモス」や、「みんなの広場 カオカオ」などが配置されており、これらの周辺環境と調和を図るため、新庁舎の配置や形状は重要な要素と考えられます。

そのため、岐阜市から示された新庁舎の形状等の案について、都市計画、建築計画、建築意匠、構造計画、緑化の見地から、検討を行いました。

2 検討会

(1) 建物の配置計画

新庁舎建設地は岐阜市が定める「中心市街地活性化基本計画区域」の北端に位置しています。

この建設地には、ぎふメディアコスモスが隣接しており、今後、これと連携してにぎわいの相乗効果を生むためには、現在の「みんなの広場 カオカオ」をより広く確保することが有効であり、これにより開放的な空間が創出されることが期待できるとの意見がありました。

さらに、中心市街地の活性化のためには、岐阜駅方面から徒歩での来庁者の動線や、庁舎西側の周辺整備も、さらに工夫を講じていくことが必要であるとの意見がありました。

また、新庁舎に公共交通機関を利用する来庁者のアクセスに配慮して、立体駐車場内にバスを入れる案については、市民の利便性が向上することから、高く評価されました。

(2) 建物の形状

建物の形状の決定にあたっては、市民の利便性や業務の効率性ととともに、周辺環境との調和に配慮することが重要となります。

今回示された新庁舎の形状は、今後、岐阜市のシンボルになり得るものであり、また、高層部の壁面の四隅を丸くすることで、建物の圧迫感や周囲への風の影響を軽減する工夫が講じられていると評価されました。

また、建物の高さ感については、さらにデザインや色彩などを工夫するとともに、ライフサイクルコストの縮減のため、吹抜けの配置や窓ガラスの選定、壁面緑化などによって、自然採光の確保や遮蔽を図っていくことが必要である

との意見がありました。

(3) 周辺環境との調和

新庁舎の建設地周辺には、特徴的な外観を持つぎふメディアコスモスやカオカオなどがあり、また、歴史的景観や自然景観に優れた区域に近接していることから、これらの周辺環境との調和が求められます。

そのため、新庁舎がぎふメディアコスモスやカオカオに及ぼす日影の影響について、高層部の見付幅を小さくすることにより、これを最小限に抑制しますが、これに加えさらに、窓ガラスによる反射についても考慮していくと良いとの意見がありました。

また、建物の色彩はぎふメディアコスモスと調和した色とすることで、一体的な空間を創出するとともに、遠方から庁舎を俯瞰した際に、植栽により緑の丘を表現するなど、自然景観への配慮もしていくと良いと考えられます。

なお、植栽にあたっては、将来の維持管理を市民とともにを行い、「共生を学ぶ場」として市民参加の意識を高める空間とすると良いとの意見もありました。

(4) その他意見

新庁舎は災害時の復旧・復興本部としての機能を担うとともに一時避難の場の機能も担っており、連続した広場を防災的な拠点として活用していくことについても評価されました。

3 まとめ

今回、岐阜市から示されました建物の配置や形状等については、市民の利便性や周辺環境との調和に対し、適切に検討されているとともに、市民広場カオカオや新庁舎からの金華山、岐阜城への眺望にも配慮されていることから、特に問題はないものと考えられます。

さらに本検討会での意見を考慮し、今後の基本設計や実施設計に活かすとともに、整備される新庁舎およびその周辺のリスクアセスメントを反映することで、より市民に親しまれ、愛され続ける新庁舎が整備されることを祈念します。

代表者

名古屋産業大学環境情報ビジネス学部

教授 和泉 潤